

福岡市教育委員会賞

「助け合える大人になるために」

福岡市立博多中学校 3年

和田 昌也

僕が小学校一年生の時、祖母が急に倒れた。心臓が急にドキドキして息ができなくなり、とても苦しかったそうだ。普段祖母は祖父と二人で住んでいるがその日は祖母一人だった。祖母が自分で救急車を呼ぶと、隊員の人達がすぐにかけてくれた。急いでタンカで救急車に運ばれ、手際よく脈拍や様子を伝えられた後あっという間に九大病院に運んでもらえたそうだ。祖父と母が九大病院に直行し、緊急手術の説明を受けて書類にサインをし、心臓のカテーテル手術が行われた。祖母の手術は無事に終わり、しばらくすると何事もなかったかのように元気になった。朝晩たくさん薬を飲んではいるが以前のように天然のポケを言い、いつも通り笑っている。僕はまだ小さかったので何も覚えていないが、祖母がその時に死んでしまっていたら祖母との思い出はほとんどなかっただろう。

祖母が救われたことは当たり前のことなのだろうか。

もしも救急車がなかったら一人で家で倒れたままだったかもしれない。もしタクシーを呼んでいても時間がかかり応急処置や病院との連携もとれず、手遅れだったかもしれない。

人の命はお金では取り戻せない。後悔してもしきれなかっただろう。

僕たち中学生はまだ働いていないが、教育を受けたり、救急車や消防車を使うことができる。この仕組みを支えているのが税金だと思うと、その価値は計り知れない。

祖母が命を救ってもらったように、僕もいつ事故や病気でお世話になるかわからない。少しでも多く納税できるように、大人になったら一生懸命仕事をして社会に恩返しをしたいと思う。

つい最近まで僕は、将来たくさん働いて両親に楽してもらいたいと考えていた。しかしこうして税金のことを勉強すると、自分や両親のことだけ考えてはいけけないのだと思い知った。もっと社会の仕組みを勉強しつつ、できるだけ親に負担をかけずに進学できるように努力したい。

僕は四人の兄弟の末っ子なので親の学費の負担は相当なものに違いない。その上多額の税金を払っているのかと思うと大人になるのが恐くなる。そんな大人になったとき苦労しないために今僕ができることは、やはり勉強だと思う。今後は学校の勉強だけでなく、社会の中で税金がどのように使われているかにも関心を持とうと思う。また、常に社会全体のことを大きく考えていきたい。一つ一つのことを丁寧に考えて勉強し、皆で助け合える社会をつくる大人の一員になりたいと思う。